

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として自治会費を支払い、利用者がこの地域の住人としての自覚を持たせ、生活の場として支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、日時を決めて、全職員の出席義務のある定例会議を開催し、施設全般、及び各事業の分化して話し合いを行い、理念の共有を徹底している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所職員と家族会によって利用者主体の夏祭り、クリスマス会等のイベントを開催し、地域住民の参加を促し、事業の持つ意味の啓蒙や理解を促している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員や利用者による「あいさつ運動」を展開し、近隣住民に気軽に立ち寄ってもらうようにし、回覧板等は、必ず利用者と共に届けるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として自治会費を支払い、利用者が地域の住人としての自覚を持たせ、自治会の行事に積極的に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者、職員は、毎月開催される定例会議に於いて自治会主催の行事参加について話し合い、その都度、事業所の報告する機会を設けてもらっている。又毎年、近くの天満宮の草取り清掃を行っている。		
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月、開催される定例会議において、自己評価や外部評価を受ける意義を理解し、その評価をもとに質の向上を図っている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各運営推進会議のメンバーの各イベントへの積極的参加を促すと共に、そこで気がついた反省点等を聞き、毎月行われる定例会議に於いて話し合うようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所との連携が上手く取れていないと思う。	○	毎日の業務に追われ、市との連携が上手く取れていないので余裕を持てるようになり、連携するようになりたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、毎月行われる定例会議に於いて地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度を勉強する機会をもうけ、以前、実際に利用者がいた為、その制度を活用した支援を行ったことがある。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、毎月開催される定例会議に於いて高齢者虐待防止関連法について勉強会の機会をもうけ、虐待を見逃すことの無いよう、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等の十分な説明を行い理解・納得を図るため、管理者及びそれに準ずる職員が必ず、その場に同席するようにして契約等を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、職員は、利用者が意見、不満、苦情を朝礼等で報告させ、その解消に努め、毎月行われる定例会議に於いて話合いの機会をもうけ、更に運営推進会議に於いての議題とし、それらを運営に反映させるようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用料の支払い、銀行等を通さず事業所へ持参を原則として、必ず、その時にそれらの報告を家族等に行い、診療等で家族と会う機会がある場合にも、その都度報告するようにしている。更に来所できない場合には、電話等で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、職員は、家族の意見、不満、苦情を朝礼等で報告させ、その解消に努め、毎月行われる定例会議に於いて話合いの機会をもうけ、更に運営推進会議に於いての議題とし、それらを運営に反映させるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者、職員は、毎月行われる定例会議に於いて管理者と職員相互の意見を交換する機会をもうけ、運営に反映させるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月行われる定例会議に於いて職員相互の話合いによって次1ヵ月の勤務表作成するが、携帯メール等を利用して、職員相互の連絡を密にして管理者、又はそれに準じる職員の判断によって調節するようにしている。(イベント時は出勤者を多くする)</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に当事業所は、利用者のいきなりのグループホームへの入居は、ご遠慮頂いている。デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して、施設に慣れ、人に慣れて、入居させるようにし、リロケーションダメージの最大限の軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当事業所は、運営者と管理者が同一であり、毎月行われる定例会議に於いてその段階に応じた研修で得た情報を職員が報告し、それを中心とした意見交換等を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、「あしがが介護支援専門員連絡会」に賛助会員となっていて地域の事業所と交流する機会をもうけ、又栃木県グループホーム協会、栃木県高齢者小規模ケアネットワークに加盟し、その研修会に職員を参加させて、サービスの質の向上を図っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月行われる定例会議に於いて介護に便利なもの購入することや工夫することを管理者、職員と共に話合いの機会をもうけている。その定例会議後、外食を中心とした食事会を開催している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当事業所は、給与を管理者自ら、計算し、勤務状況等を把握し、銀行振り込みではなく、現金手渡しとしており、その都度、管理者が個々の職員に面接して評価等を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	基本的に当事業所は、利用者のいきなりのグループホームへの入居は、ご遠慮頂いている。デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して、施設に慣れ、人に慣れて、その間に本人の不安や要望を受け止めて入居させるようにし、リロケーションダメージの軽減に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して説明し、家族の不安を軽減し、入居審査会迄に家族の要望を聞く機会をもうけ、入居決定後の契約等する際にフィードバックして、それを聞き入れられるような介護ができるように運営に生かしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的に当事業所は、利用者のいきなりのグループホームへの入居は、ご遠慮頂いている。デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して、施設に慣れ、人に慣れて、入居させるようにし、リロケーションダメージの最大限の軽減に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に当事業所は、利用者のいきなりのグループホームへの入居は、ご遠慮頂いている。デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して、施設に慣れ、人に慣れて、入居させるようにし、リロケーションダメージの最大限の軽減に努めていることを家族等への説明、相談を行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当事業所は、1100坪の広大な敷地を有し、醍醐農園の作物の栽培や草むしり、花壇の世話や食事の下ごしらえ、食器拭き等を通して職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いくようにしている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	当事業所は、家族会を有し、職員は、家族を支援される一方の立場におかず、各イベントを通して参加を促し、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当事業所の管理者、職員は、本人と家族との外食や旅行等を勧め、事業所が独自に企画して、本人、家族、職員と共に1日旅行を行った。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人等の面会時間を良識の範囲の中で設定し、自由に訪問できるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	社会的に9人と言う家族の最大単位ではあるが、その事業所内の利用者同士の人間関係を把握し、着座する位置を微妙に調節しながら、食事や共同作業等を行うように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設全体で利用者と家族に対し、ターミナル迄の説明を行い、グループホームでの介護の限界を理解をしてもらい、重度化しても宿泊事業への移行を促して、その後もこの施設でターミナルを迎えることができるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月開催される定例会議に於いて利用者の個別ケースワークを行い、直接携わる職員から情報を把握して検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	大まかな情報は、入居時に収集するが、毎月、利用料の支払い、銀行等を通さず事業所へ持参を原則として、必ず、その時にそれらの情報を家族等から収集を行い、診療等で家族と会う機会がある場合にも、その都度収集するようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月開催される定例会議に於いて利用者の個別ケースワークを行い、看護職員や直接携わる介護職員から情報を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当責任者が中心となって個々の利用者に直接携わる介護職員から家族を含めた話合いの機会をもうけ、更に毎月行われる定例会議等で他の職員からのスーパーバイズを受けたりし、個々の利用者に関する介護内容の検討し、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標、長期目標に対しては全職員が関わりモニタリングを行い、また家族の思いや力を借りて次のプランを作成している。期間前にプランの見直しが必要と判断した場合には家族にその旨を話し家族の参加が無理な場合には電話等で意見を伺いプランに反映している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し、日々の様子詳細にケース記録に記載し		
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、1100坪の広大な敷地を有し、気軽に散歩できるスペースを確保し、醍醐農園の作物の栽培や草むしり、沢山ある花壇の世話や食事の下ごしらえ、食器拭き、飼っている犬の散歩、猫の世話、手芸等の作業を通して役割を与える選択肢を多く持って支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知度、身体的レベルの重度化に伴い、本人や家族等の意向や必要性に応じて、特養ホームへの移行等を他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの市役所の職員がメンバーになって頂いて、地域密着型サービスとして意見を聞きながら協働しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族等の希望に従って、提携医師の往診を依頼したり、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、受診時には生活経過記録・バイタル測定記録を家族に渡しスムーズな受診ができるようにしている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の専門精神病院と協力合意の契約をしている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設するデイサービスセンターの利用者をよく知る看護職員と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は、家族を含めて、行き場所を失うことの不安を解消する為にコマ目にお見舞いや家族との連絡を密にするようにし、安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から確認書を作成し、本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、定例会議等で職員全員で方針を共有している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人、又は家族に対し、重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、確認書を作成し、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組む、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	基本的に当事業所は、利用者のいきなりのグループホームへの入居は、ご遠慮頂いている。デイサービス、自主運営事業の宿泊の利用を通して、施設に慣れ、人に慣れて、入居させるようにし、リロケーションダメージの最大限の軽減に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月行われる定例会議に於いて、一人一人の尊厳や誇りを損なうような言葉等について職員で話し合う機会をもうけ、又プライバシーの確保の為、全職員に徹底するようにマニュアルの作成し、定例会議等で見直しを行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当事業所の有する多くの作業を通して役割を与える選択肢の中から自ら選んでもらい、張りのある生活を送れるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当事業所の都合を優先することなく、当日の本人の体調や気分に合わせて暮らしが送れるよう支援している。また希望も伺いながら楽しく生活できるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、それぞれの担当職員が本人の希望に従って行っていて、更に当事業所には美容師の資格を有している職員がいるも、本人・家族の希望するお店に行けるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解するよう話合いの機会をもうけ、事故等には十分に注意をし、職員の連携を図り鍵をかけないケアを行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、施設の構造が職員室から中庭を通して全居室が見渡せるようになっていて利用者各々の居所が瞬時に確認できるようになっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	例えば、以前仏壇を居室に持ってきた利用者にお線香を供えたいとの要望に点火する用具を職員が管理し、お線香は、利用者に管理させていた。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	当事業所の管理者は、国際リスクマネジメント協会のリスクマネージャーであり、介護リスクマネジメント分野から資格取得して、介護事故の防止に積極的に取り組んでおり、定例会議等の機会をもうけて職員に講義している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者を始めとして職員の殆どが普通救命講習を受け、利用者の急変や事故発生に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、災害時の利用者の誘導等を行うこととし、自治会の開催する避難訓練に参加した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	管理者のリスクマネージャーの観点から、入居の際に確認書を作成し、本人や家族等やかかりつけ医等と話し合い、介護計画に反映させて、定例会議等で職員全員で対応策を検討し、共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見と対応する為にデイサービスセンターの看護職員と協議して対応するようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、管理者及びそれに準ずる職員とデイサービスセンターの看護職員が管理し、協力病院や提携する医師へ情報を提供し、又協議して、その変化等に応じて、全職員に朝礼や申送り、定例会議で個々の利用者の服薬に対応するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎月行われる定例会議で便秘等に関する勉強会をデイサービスセンターの看護職員にしてもらい、カードインデックスを利用して、排泄に関して、記録を徹底し、水分摂取を促し、体を動かす介護を行うような作業を介護に取り入れるようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の方は毎晩、専用の洗浄剤に浸し、毎食後にはイソジン消毒液を使用して口腔内の消毒・殺菌・口臭予防を行なっている。何とか一人で歯磨きのできる方には出来ないところの支援をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く食事ができるように繊維の多い食物は細かく刻み食材の旨味を上手に引き出し口当たり良くし、又個人に合わせた形状にし全量摂取できるようにしている。水分に関しては深夜でも飲水出来る様に自室にボトルを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、疥癬、MRSA、ノロウイルス等の感染症に対する予防や対応のマニュアルを作成し、特にインフルエンザの予防接種は、利用者と職員共に一括して、往診契約している医師にお願いしている。更に冬期の乾燥時期のノロウイルスの対策には、プレバントを加湿器や噴霧器等によって空中散布し、その対策を行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理者が調理師であり、又食品衛生指導員である為、食中毒の対策は、万全である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一部を除いて、施設全体が親しみ易い「和」を基調としていて、玄関周りは、常に季節の花がプランターに植えてあり、それに近くの住民が水を与えて来てくれたり、施設全体をオープンにし、建物周辺には、沢山の花や実のなる木が植えてある。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を失わないように「和」を基調としており、一般的なグループホームより、個々の空間は、広く、季節感を感じさせる為の中庭を配して、施設全体が木質化されている。個人々の生活暦を知り、一番良い表情が見れる居心地の良い場所を探し提供している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルとテレビを観るソファは別に配置しており、廊下が広くので利用者同士やそれぞれ思い思いのスペースを確保できるようにテーブルとイスが設置してある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際、居室には、本人や家族と相談し、危険物を除く、使い慣れたものや好みものを持参してもらっている。又本人にとって必要なものがあれば、家族に持参してもらおうか、タンス等の大きなもの場合、施設の所有する軽トラックでとりに行くようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室、及び共有スペースの全てには、オンピカシステムが設置してあり、外気との空気の交換するようになっている。又、各居室に独立してエアコンが設置してあり、室温管理には、利用者の状況に対応できるようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体機能を奪う為、必要以外の福祉用具は、設置したり、用いないようにしている。但し、必要とあれば、例を挙げると徘徊感知器を2機、呼び出しコール2台、介護用ベッド9台、吸引機、エアマット2台を所有している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>食事・おやつの際は異食のある人の隣には、判断できる人に座って頂きそのテーブルの班長さんを担当していただき、掃除機の使える人には自室やホールの掃除をお願いしたりと個々の力を上手に発揮できるように支援している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>当事業所は、1100坪の広大な敷地を有し、気軽に散歩できるスペースを確保し、醍醐農園の作物の栽培や草むしり、沢山ある花壇の世話や食事の下ごしらえ、食器拭き、飼っている犬の散歩、猫の世話、手芸等の作業を通して役割を与える選択肢を多く持って支援している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、渡良瀬川に隣接し、非常に日当たりの良い場所にあります。1146坪の広大な敷地を有し、一部を除いて施設全体が日本人として「和」を基調とした雰囲気醸し出す傍ら、入居者にそのいたる所にある花壇の花の世話や実のなる木を植えたり、醍醐農園の作物の栽培、収穫、調理等を通して季節感を感じてもらい、人間が若い時とは異なり、失いながら生きていくことをよく理解し、施設で飼っている犬と猫の世話、手芸、食事の下ごしらえや茶碗拭き等の作業を通して、入居者の特性に応じて、加齢や認知症によって入居者それぞれの特性に応じて失われた役割を担ってもらい、入居者一人々々が「ここが私の家です。」と胸を張って言えるようにグループホームの持つ機能である「生活の場」としていきたいと日々の実践の中で事業所全体として取り組んでいます。又恒例のイベントには、少ない予算から捻出して、地域の住民の協力を得て、職員、家族と共に、夏祭りには、花火を延べ4000発も打ち上げたり、敬老会では、そばを打って、その場で茹でて食べたり、クリスマス会の非常に盛り上がるビンゴゲームの商品を用意したり、地域に根ざしたグループホームを目指しています。そして当事業所の職員は、常に向上心を持ち、介護の質の向上を図り、施設自体も、花壇の増設等や庭の整備を欠かさず、常に進化するグループホームとして、入居者が限られた人生を豊かなものにしていきたいと思っています。更に今年、往診して下さる医師と連携して、ターミナルケアを実践し、その体制を確立し、これからもより強固な体制づくりを心掛け、入居者、家族が安心して、入居してもらえるようにしたいと思っています。